

●第 30 回総会無事に成功

大村幸正理事長の挨拶があり、通常総会開始出席者は 13 名 委任状提出者 21 名 合計 34 名、社員総数 39 名の 2 分の 1 に達しているため成立しました。事務局から議長に有田勉氏を選出、記録者に播川司・伊藤千恵子両氏が指名されて議事が進められました。**1 号議案**2023 年度の活動報告について山村武正氏より議案書を読み上げ、詳しく説明されました。※理事会での協議も合わせて報告。開催行事についても、行事名、日にち、参加人数も明確にし、内容も詳しく報告され、**特に質問なく全員一致で承認**。続いて**2 号議案**2023 年度 決算報告について、会計担当理事が決められていないため、常務理事の山村武正氏より報告された。今年は会計事務処理が小川麻衣さんのもと、丁寧にされていて、「仕訳帳」「活動計算書」「貸借対照表」「財産目録」「損益計算書」すべてが明確に報告された。質疑では、山下氏より、収入の部 国交省からの予算と決算の差が大きいとの質問があったが、今年は国交省への報告が早くスムーズに行われたため、入金が早かったと回答された。支出の部も、草刈り謝金、生育調査謝金など、今年度中に支払われたため、予算より多く支出している旨、回答された。福井氏から、草刈り等の謝金の額について、検討を要すると話された。意見として聞く旨、回答され、**多数で承認**。**3 号議案**2023 年度 会計監査報告について、4 月 25 日二人の会計監査の方の承認を受けている旨、山村武正氏より報告された。**4 号議案** 2024 年度 活動方針案について山村武正氏より提案された（代読 伊藤喜昭氏）○イベント日程など出されているがあくまで案であり、変更は事情に応じて十分可能だと強調された。○運営について専門性を生かした、活動グループをめざし、分担はするが従来どおりの運営方法も生かしていくなど。○木津川左岸の京田辺市と精華町の境にあるビオトープとされている高水敷と河川内の水路の利用については、検討をしていくとされ、**多数で承認**。**5 号議案**2024 年度 予算案 山村武正氏より提案され、**多数で承認**。その他 ※深田三郎氏を次期総会で理事に推薦する旨、話された。（会計担当顧問に就任）※現在、会は 28 年目の為、あと 2 年で創立 30 周年を迎える、記念行事など提案をしてほしい。意見⇒里山の会のロゴマークを考えたらいいのではないかな。会員名簿を作りたい（個人情報保護の問題あり？）里山農園についての冊子をまとめたらいいいのではないかななどの発言がありました。



●会誌 56 号の発刊はすべての原稿が編集できて印刷製本まで出来上がりました。

連休が続き印刷用紙の調達に時間がかかることになりました。これまでは殆ど連休に入る前に発刊郵送をしてきましたので今回のような事態は避けられてきました。しかし今回、一部の原稿の準備に手間がかかり、思いもよらない事態になってしまいました。特に運送会社の人手不足からメール便業務が廃止になり、これまで通り窓口では受け取っていただけるのですが、宛名シール様式が変更になり 56 号の送付に手間取ることになりました。郵便局の利用では最低 330 円の郵送料になり従来より高くなる見積もりでした。これまで通りと思って計画してきましたが、物価高が進み、里山の会の活動にも大きな影響を受けることになってしまいました。

●母ちゃんズより楽しい報告。タケノコ掘り実施 19 人参加

久々の里山農園での活動。天気も心配でしたが途中少し雨に降られたものの、大人は農作業をして子供はその周りで遊んでいました。昨年末から弓矢づくりに子どもらははまっていて、丸山から 2 号地にまで届くほどの弓矢を作って遊びました。農園作業が一段落した頃に筍探しをして、小さい

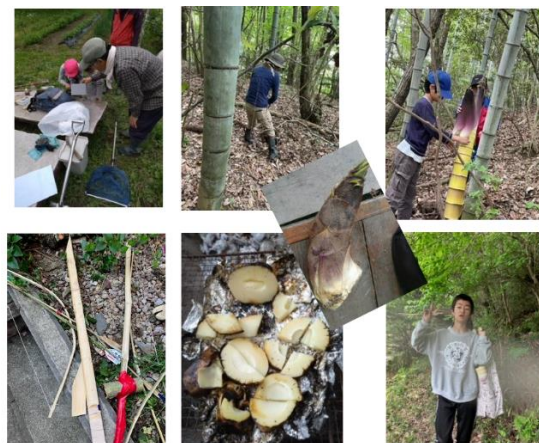
のから大きいまで 15 本ほど掘り起こしました。大きくなった筍を見つけると皮をはいでみたりと子どもらは興味津々。掘った筍は炭をおこしてアルミホイルに包み、掘ってすぐに食べる筍は甘くておいしかったです。いつもの農園作業のおじ様達も 5 人ほど一緒に作業をして虫取りをする子供にも優しく声をかけてもらい、久々楽しい農園作業でした。

●木津川希少種植生調査業務（250 万円弱）の実施計画書を提出しました。

年度最初の大仕事は新年度の各事業の推進のための財源確保が最初の大仕事です。内容は木津川堤防で八幡市の京阪鉄橋から木津川市加茂町の小谷までの両岸 35 ヶ所で生育している絶滅危惧種(フナバラソウ・レンリソウ・マキエハギ・イヌハギなど)の生育地 16000 m²の調査管理と除草作業の実行を行います。生育地の除草作業では、春に 26 ヶ所 14200 m²、夏に 10 ヶ所 3720 m²。秋に 35 ヶ所 14200 m²除草と刈草の持ち出し作業です。そして調査活動では 35 ヶ所の生育確認と生育写真の撮影とその作業写真をまとめた報告書の提出が求められます。この作業の受注資格は、河川協力団体として国交省から認定された団体であることが条件とされています。(里山の会は 2016 年に国交省から認定されています。また京都府からもフナバラソウ・レンリソウ・ヤマトサンショウウオの保全管理団体の指名を受けています)

●ミツバチとメダカの観察会いよいよ準備始まる 少雨決行で 5 月 18 日に実行します。

会場整備 5 月 15 日 13:00~15:00 草刈り、募集を開始して 3 家族 6 人の申込状況で、まだ参加者には余裕がありますのでご参加をお待ちしています。里山の会の事務局会議では、15 日に会場地の草刈りをして整備することに決めました。また、初めての取組でミツバチやメダカの紙芝居の製作にも力が入っています。さらにハチミツも少し食べ比べをしていただこうか、などの意見もありました。当日のお楽しみが一つ増えるようです。



小さな生き物の世界をのぞいてみませんか シロメダカを飼育してみませんか

ミツバチとシロメダカの観察会

馬坂川の下の方とした畑地。伏流水が湧き出る池ではシロメダカが繁殖しています。池の近くの巣箱では日本ミツバチがハチミツを集めています。

ミツバチとメダカのくらしを学び、メダカをすくって飼育してみませんか？
小さな生き物の世界に友達になりましょう。

5 月 18 日(土) 9:30~12:00 里山の会事務所近くの農地 **少雨決行**

集合場所 里山の会事務所 京田辺市田辺深田 15

近鉄線：新田辺駅下車 徒歩 15 分
自動車でお越しの場合は市役所の駐車場を利用してください

参加費無料

申し込み先 fddb257@yahoo.co.jp Tel. fax 0774-64-4183

記入事項 氏名 住所 年齢 電話番号(メールアドレス) 交通手段
締め切り 5 月 5 日(日) 親子 10 組を抽選できめ連絡します

持ち物 魚とり用網 帽子 水筒 タオル 濡れてよい靴 筆記用具 ビニール袋
メダカいれ用バケツまたは水槽 エアポンプ(ある人) ★ 雨具の用意
水を凍らせたペットボトル(500ml) 1

シロメダカは人が作り出したものです。自然界にいるクロメダカと交雑させないよう。逃がしてはいけません。責任をもって飼育してください。

10 匹前後持ち帰っていただけます。メダカ 10 匹を飼育するためには 30 cm 以上の水槽が必要です。砂、水草を入れて準備してください。濾過装置があると飼育しやすいです。水道水を 3 日前には入れてカルキ抜きをして下さい。川砂、水草のない方は当日、お分けます。

参加者募集

ミツバチとメダカの観察と説明

ミツバチ……養蜂農家 安岡俊爾 山岡治作 吉村国男
メダカ……里山の会 魚部会 福井波恵

主催 特定非営利活動法人 やましろ里山の会

●ヤマトサンショウウオの現地調査 現地調査日程決まる 5 月 19 日 10:00 に里山農園にご集合下さい。

2007 年に当時はカスミサンショウウオ(近年ヤマトサンショウウオに名称が変更)卵囊を発見して 2017 年に成体を発見、そして 2024 年 3 月に第 3 か所目の発見場所を確認しました。いずれも発見場所は異なります。成体発見時にご指導をいただいてきた桜谷保之先生から万一の場合に備えて生育場所の確保をしておくべきと強調されてきました。しかし適当なところが見つかりませんでした。ところが今回発見した生育地は、一番期待していた最適の場所だったのです。今後、維持管理していくにはどのように対応していけばいいのか、環境条件を整えるべきかの現地調査を桜谷先生を迎えて実行します。そしてみんなで意見を出し合って、古代から生き残ってきた京田辺市のヤマトサンショウウオが末永く生き残れて、大切な生き物を守り続けられる対策を考え出すことができればと思います。そしてこの日集まった皆さんで維持保護管理できるサークルがまとめられれば最高だと思います。意欲のある方の参加を強くお願いします。